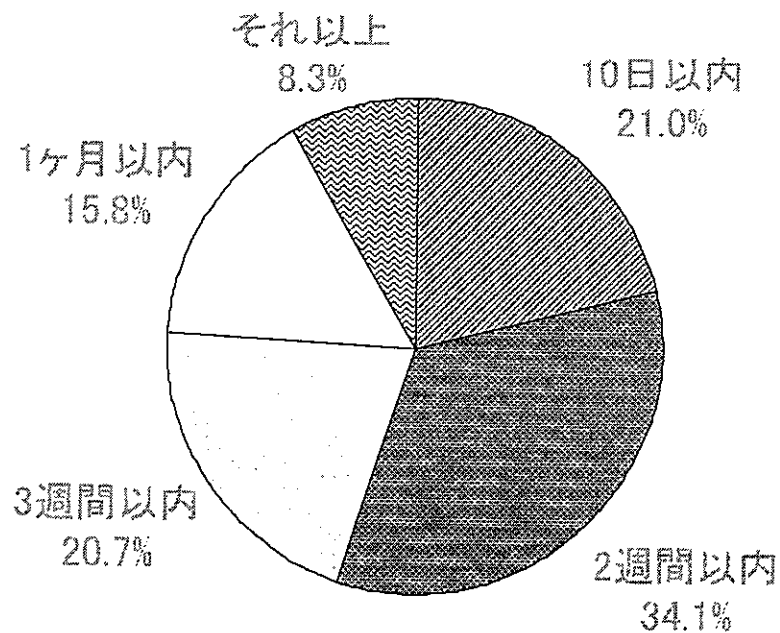


ドナーの回復の経過

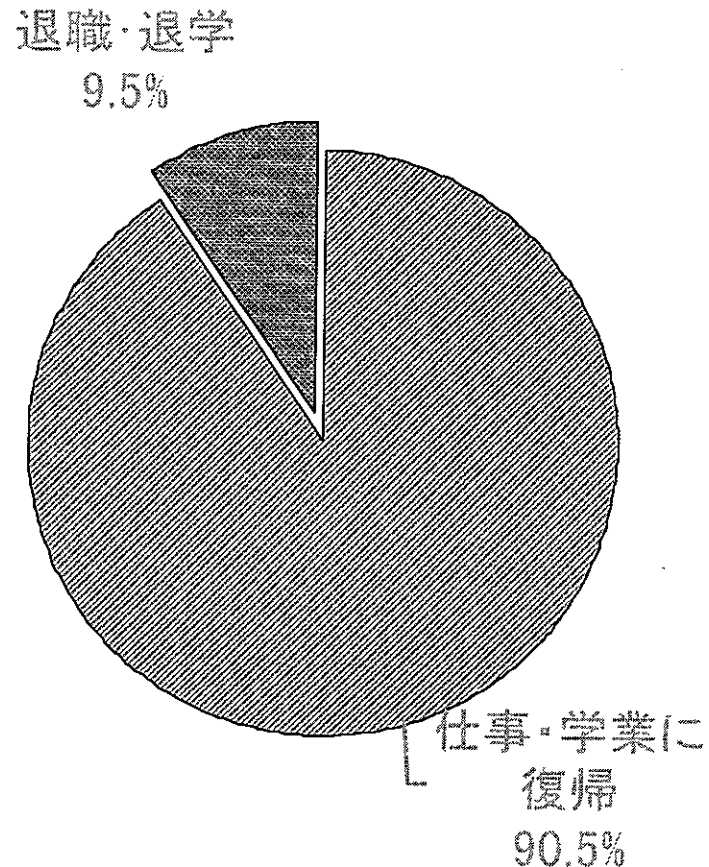


手術から退院までの期間

■ 現在の体調までの回復に要した期間

- 平均で7.5ヶ月
- 「完全に回復した」群で、平均5.7ヶ月

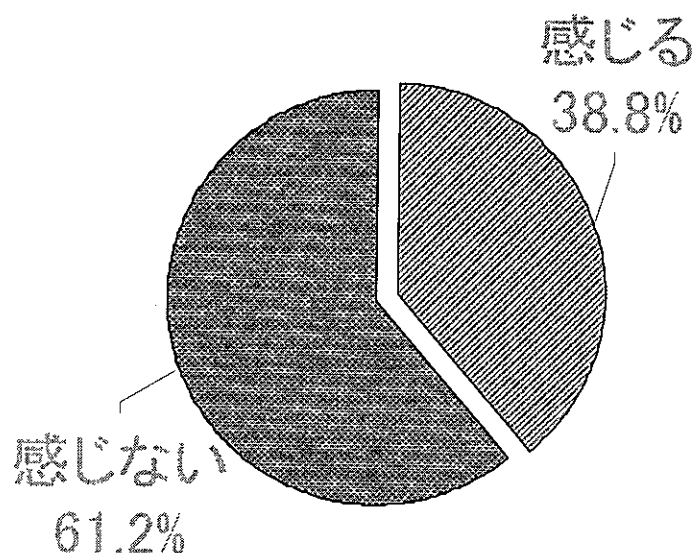
職場・学業への復帰状況



術後の仕事への復帰状況

- ドナーの経過が順調でなかったもので、復帰できなかった傾向が確認されたが、近年の雇用情勢の影響も考えられる
- 職場・学校への復帰に要した期間：
- 10.2±9.2週

将来の健康不安と経過の順調度



将来への健康不安

将来の健康不安とドナー経過順調度

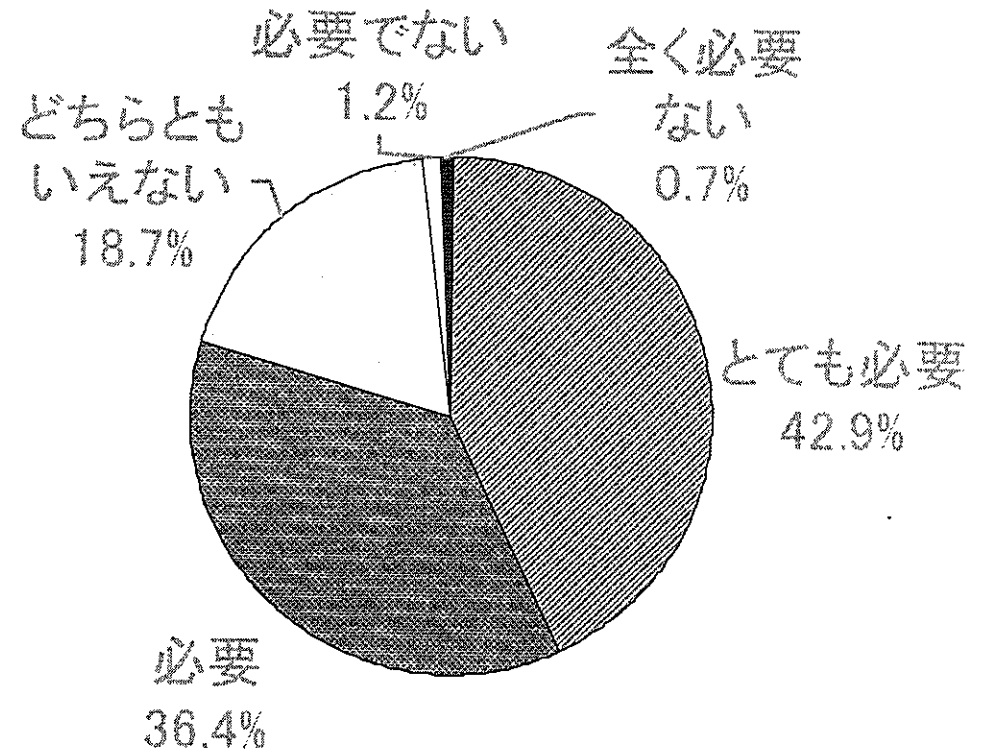
将来の健康不安	ドナー経過順調度		
	順調だった	どちらとも	悪かった
感じる	28.2%	52.9%	62.2%
感じない	71.8%	47.1%	37.8%

注: $\chi^2=113.3, p<.0001$

経過が順調でなかったものにおいて、健康不安をより感じている傾向が見られた

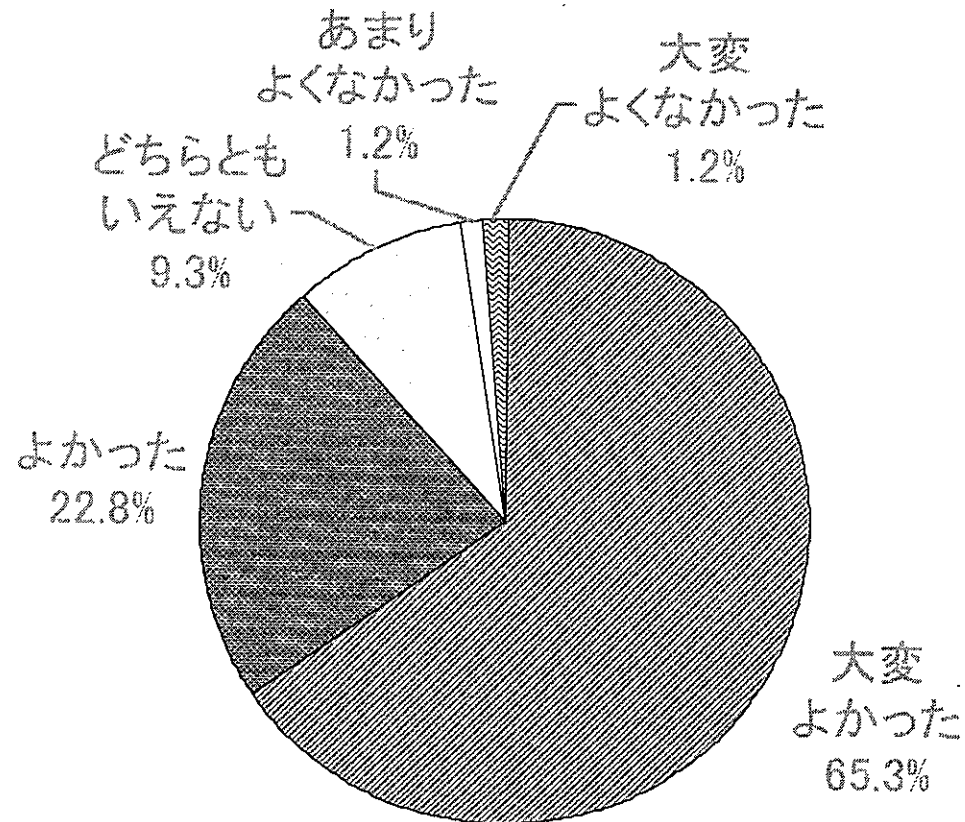
ドナーに対する保障制度

- 現在、民間の生命保険ではドナーの入院・死亡保障の支払いはなされない
- 万が一の事故のための骨髄移植と同様の損害保険の必要性を尋ねた



ドナー向け損害保険の必要性

ドナーによる肝臓提供の評価



肝臓を提供したことへの評価

■ 提供に対する評価

- レシピエントの治療状況が良好であること($r=.411$)
- 自分の体調回復が良好であること($r=.189$)
が有意に相関

結果のまとめ 1

- 2003年12月末までに肝臓を提供した1,435名から回答を得た(回収率約61%)
- 健康状態を「完全に回復した」と答えた人は、全体の52.7%だった
- 時間経過とともに症状は軽減するものの、現在も感じる症状として、創部のひきつれ・麻痺(17.7%)、ケロイド(15.7%)、疲労感(15.0%)、腹部膨満・違和感(10.2%)などの症状の訴えがあった
- 術後に医療機関を定期的に受診している人は27.2%である一方、健康診断を受けないなど医療のフォローアップを受けていない人が約26%いた
- 移植医による説明の前から提供の意思を固めていた人が多かった(説明前から:65.6%、その場で:21.6%)
そのため、移植医に出会う以前にどれだけの正確な情報を持っているかが重要になると考えられる

結果のまとめ 2

- 術後に職場や学校へ復帰した人は90.5%、退職・退学などを経験したのは9.5%。術後経過の順調度が低いものでこれらに復帰できない傾向が認められる。
- レシピエントが死亡したドナーのうち、現在も移植施設との何らかのかかわりを持っている人は12.9%にとどまっている。また、レシピエントの治療過程において医療機関に対して何らかの不満や要望を持っていた人が約60%いた。
- 肝臓を提供したことについての総合的な評価は、「大変よかった」人が65.4%である一方、「大変よくなかった」人が1.2%いる。レシピエントの治療状況や自身の体調回復が良好であることが有意に相関していた。
- 肝移植研究会の新しい試みであるドナー外来設置に関する設問に対しては、非常に多くの方々から具体的で示唆に富んだ提案やご意見を頂いている。
これらを今後活かせるよう、分析を進める方針である

今後に向けて(対応策)

■施設レベルでの対応

- 安全性の確保、ドナー外来の設置、チーム医療の充実
- 職員の研修など質の向上

■日本肝移植研究会としての対応

- 継続的なドナー調査の実施、ドナー登録制度の充実
- 統一的なパンフレットやガイドラインの検討

■社会に向けての働きかけ

- ドナーに対する社会的理解を深めていただく
- ドナーに対して支援的な制度やサービスの必要性を訴える